

Luis Perdomo Trio

[プロフィール]

Luis Perdomo ルイス・ペルドモ：Piano



1971年、ベネズエラのカラカスに生まれ育つ。

熱狂的な音楽ファンでコレクターでもあった父の影響で、幼少より様々な音楽に囲まれて育つ。

特にバド・パウエルとオスカー・ピーターソンのようなジャズの偉人の音に惹かれてピアノを始める。

12歳頃から、ベネズエラのテレビやラジオでプロの音楽家活動をスタートさせる。さらにJazzへ傾倒しCecil TaylorやJohn Coltrane等の演奏を聴き込んでいくなかで、自身の演奏スタイルや音の世界に広がりを見いだしていく。

好んで聴いていた音楽家達が、ニューヨークを拠点としていたということもあり、彼自身も奨学金を獲得してニューヨークへ移住し名門マンハッタン音楽学校へ入学する。

入学後、JazzとクラシックピアノをHarold DankoとMartha Pestalozziの両名に師事。1997年に学士号を取得した後、さらに、Roland Hannaのもと"Queens College"にて博士号を取得する。

ここで学んだ出来事は、彼のアーティストとしてのキャリアの中でも、おそらくとても重要な部分を形成したといえるだろう。ルイス自身「Roland Hanna氏のもとで学んでいた間、私はピアノと音楽の両方について自分が知っていたことは、ほんのわずかにすぎないのだということに気づかされた」と述べている。

ルイスにとっての音楽教育は、教室に限られたものではなく、ニューヨークへ拠点を移すとすぐに、話題となりピアニストとしての地位を確立していく。

Ravi ColtraneやJohn Patitucci, Ray Barretto, Brian Lynch, Miguel Zenon, Dave Douglas, Butch Morris, Ben Wolfe, David Gilmore, Ralph Irizarry & Timbalaye, Fort Apache Band, David Sanchez, Johnathan Blake, Ignacio Berroaといったアーティスト達と共演やレコーディングを行う。

なかでも、Miguel ZenónとRavi Coltraneが率いるグループのメンバーとして、演奏はもちろん作曲/編曲をも担当し頭角をあらわすこととなる。

ルイスが参加しているRavi Coltraneの"Blending Times"とMiguel Zenónの"Alma Adentro: The Puerto Rican Songbook"は双方ともにグラミーにノミネートされた。自身のリーダー作も、「The Infancia Project(2012)」や「Universal Mind(2012)」といった話題のアルバムをすでに5枚発表しており、6枚目となった「Links」を2013年5月にCriss Cross Jazzレーベルよりリリース。ルイスとは旧知の仲であるRodney Green(ds), Dwayne Burno(b)そしてサクソ奏者のMiguel Zenonをメンバーに迎えた渾身の最新プロジェクトとして、早くも各メディアからも絶賛を受けている。

Hans Glawischnig ハンス・グラウイシュニグ：bass



1970年、オーストリアのグラーツ生まれ。

ピアニストで、ビッグバンド・リーダーでもあった父の影響で、6歳の頃には、グラーツ音楽アカデミー特待生クラスにヴァイオリニストとして在籍。13歳でエレクトリック・ベース、16歳でコントラバスを始め、その後2年間にわたってWayne Darlingよりベースを学ぶ。高校卒業後、奨学金を獲得してパークリー音楽大学へ入学。入学後は、Bruce Gertzに師事。

1992年に学士を取得後奨学金を獲得しニューヨークへ移住してマンハッタン音楽学校の修士課程に編入する。

同校ではJeff Andrewswileに師事し、1994年に学位を取得。1995年、新進気鋭なメンバーとともにBobby Watsonのバンドへ参加し、翌年にはRay Barrettoのバンドへの参加で一躍注目され始める。

その後も、Paquito d'Riveraや、David Samuels, Bobby Sanabria, Rick Margitza, Garry Dial, Billy Harper, Richie Beirach, Billy Hart, Joe Locke, David Sanchez, Dave Binney, Ken Hatfield, Adam Rogers, Mark Murphy, Stefon Harris, Claudio Roditi, Donny McCaslin, Billy Drewes, Ari Hoenig, James Moody, Jamey Haddad, Brian Lynch, Phil Woods, Claudia Acuñaといった一線で活躍する音楽家達と数々のレコーディングと共演を行ってきた。1988年に参加したDavid Sanchezのグループにて制作した作品がグラミーにノミネートされる。

'01年、フレッシュ・サウンド・ニュー・タレント(FSNT)より初リーダー作『Common Ground』をリリース。

'08年、チック・コリアを初めとした豪華メンバーでレコーディングされた全曲オリジナルの「Panorama」を発表し、見事なコンテンポラリー・サウンドを構築している。各作品へのアプローチやメンバーの起用など総合的な視点で自身の音を作り上げた作品として周囲を驚かせた。

'12年、3作目「Jahira」は前作とはうってかわったサクソとドラムとのトリオ編成の作品をリリース。陰影の際立つ音でリスナーを魅了する作品となった。

E.J. Strickland E.J.・ストリックランド：drums



フロリダ州ゲインズビル生まれ、マイアミで育つ。シンフォニー・オーケストラのパーカッションистでジャズ好きな父親の影響で幼少より、マイルス・デイビス、ジョン・コルトレン等のジャズやスティービー・ワンダー、レッド・ツェッペリン、ジミ・ヘンドリックスなど様々な音楽を聴きながら育つ。当然ながら、彼は音楽に興味を持ち11才より勉強を始め1年後にはプロを志す。高校はマイアミの「ニューワールド・スクール・オブ・アーツ」に進み、クラシック音楽とジャズを学び、特にエルビン・ジョーンズ、フィリー・ジョー・ジョーンズ、トニー・ウィリアムス等の影響を受ける。さらに、マイアミで行なわれたジャズのクリニックに参加した時、ウイントン・マルサリス、ジョン・ファデス、ボビー・ワトソン等の指導を受けてニューヨークに行く決心をする。

'97年、ニューヨークの「ニュースクール」に入学し、ピアノと作曲を勉強すると同時にドラムスをジョー・チェンバース、カール・アレン、ルイス・ナッシュ等に師事する。また、彼の双児の弟マーカス・ストリックランド(ts)のグループに級友のロバート・グラスパー、ブランドン・オーエンスと在学中より、ウイントン・マルサリス、アビー・リンカーン、クリスチャン・マクブライド、ハービー・ハンコック、ダイアン・リーブス等のグループで演奏し大きな話題となる。現在のニューヨーク・ジャズ・シーンで最多忙なファースト・コールのドラマーの一人である。